

目次

- ・ インタビュー.....「学生には多様な経験を」 (1)
- ・ センターニュース「第3回愛媛大学英語教育改革セミナー」他 (2)
- ・ 授業に役立つ道具箱...「大学生向けのスタディスキル本」 (5)
- ・ 授業のティップス...「ビデオ教材を効果的に使うには」 (6)
- ・ センター運営委員会の動き..... (7)
- ・ センター日誌..... (8)
- ・ 学生の声..... (8)

インタビュー

学生には多様な経験を

大学教育総合センター 副センター長
システム開発部長 高瀬 恵次

- 愛媛大学の教育の「強み」と「弱み」はそれぞれ何であるとお考えですか？

「強み」は、地域に密着した教育ができています点ですね。例えば、私の場合は水の研究をしているので、研究の場が非常に身近な場所にあります。こうした現場に学生を連れて行けるというメリットがあります。大都市ではなかなかできないことだと思います。その他に、地方にある大学ということもあって、教職員と学生との距離が近いのではないかと思います。

「弱み」は、大学数が少ないために、同じ研究分野の様々な先生と出会う機会が大都市に比べて少ないかもしれませんね。研究者だけではなく、同じ専門分野を学ぶ学生と出会う機会も少ないと思います。また、残念ながら、不本意の入学者もいるため、やってもダメだと思う学生もいると思います。やればできるという意識が少し弱い気がします。愛媛大学へのアイデンティティが少ない。こうした意識をどこかで変える必要があるのですが、それを上手に転換できる教育がなされていないのかもしれない。



- 高瀬先生は、これまで大学教育にどのように関わってこられましたか？

学生には、自分の知っていることを全て教えたいと思ってきました。失敗も成功も全て教えてきたつもりです。反面教師だったかな(笑)。学生にはいろいろ経験してほしいというのが教育理念です。研究室では、新入生から4年生と一緒にディスカッション

ンをする時間を積み重ねてきました。最近では院生が中心に後輩の面倒を見るという教育システムづくりができあがり、実を結んできていると思います。

また、農学部の教務委員長として、基礎セミナーの内容、形態などを議論して、作り上げてきました。連合大学院では、3大学共同講義の世話を担当し、6日間の集中型の授業を作り上げました。異なる大学の留学生、教員の交流などを促進してきました。

農学部の高校説明会、出張講義には積極的に参加し、講義をしてきました。高校で私の授業を聞いて、農学部に入学して私の研究室に入ってきた学生も数名います。嬉しい経験です。出張講義のインパクトの強さを強く感じています。

また大学教育総合センターとの関わりで言うと、実践センター時代から学部代表で参加し、大学教育センターの設立に関わりました。これまで6年ほど継続して関わってきています。

- システム開発部長として、今後、本学の教育をどのように改革していこうとしているのかを教えてください。

専門性を高めるだけではなく、学生が人間として育っていく教育をやりたい。そのためのシステムづくり、組織づくりを学部と協力してやりたい。セン

ターの教育システム開発部と学生たちが企画している火曜ナイトサロンに最近参加しているが、このように昼間の学問の場から離れて参加できる学びの場がもっと必要ではないでしょうか。いろいろな人とのディスカッション、付き合いの機会を提供することで、物事に積極的に取り組める能力、社会に出て動ける能力がつくと思います。教員の皆さんには、学生に人間性と社会性を教えることの重要性を理解してもらえよう努力したいと思っています。

(聞き手 佐藤浩章 大学教育総合センター)

たかせ・けいじ

農学部教授 大学教育総合センター 副センター長 (併)

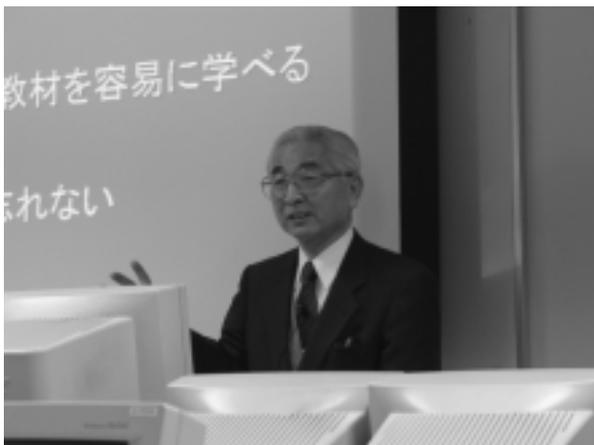
1974年3月京都大学農学部農業工学科卒業、1976年3月京都大学大学院農学研究科修士課程農業工学専攻修了

専門分野 水文学、水資源

▼ 大学改革に関する教職員の皆さんの意見を掲載します。こちらがインタビューに伺うこともありますが、投稿も受け付けております。随時連絡をお待ちしております。巻末の◎印の編集委員までお願いします。

センターニュース

第3回愛媛大学英語教育改革セミナー



英語教育センターでは、3月23日(火曜日)に、愛媛県教育委員会および松山市教育委員会の後援を得て、第3回愛媛大学英語教育改革セミナー(「三ラウンドシステムによる英語指導の成果」)を開催しました。

今回は、特別講師として千葉大学名誉教授で、現在、文京学院大学外国語学部長の竹蓋幸生先生をお招きし、長年の研究を基に確立された「三ラウンドシステム」という独自の英語リスニング指導理論をご説明いただきました。さらに、三ラウンドシステムの理論を使って作成した教材とその教材を使った実践結果をご紹介いただき、最後に、実物のCD-ROM教材を使って、授業の実践例をデモンストレーションしていただきました。英語圏の人々がごく自然に使っている本物の英語(外国語学習者としては非常に高いレベルの素材)を教材とし、それを、負荷分散しながら繰り返し学習させ、適切な時点で適切なヒントを与えることにより、学習者が、いかに、無理なく聴き取れるようになるかということ、具体的に紹介していただき、参加者の興味を大いに引きつけていました。英語も科学的指導方法を取り

入れ、システムとして教育の質を保証するように仕組みれば、学生の英語力を高い確率で非常に効果的に伸ばすことが出来るという竹蓋先生の理論及び実践報告は、多くの参加者に新鮮な驚きを与えたようです。

これに先立ち、午前中のセッションでは、英語教育センターの金森強教授から「長崎ウェスレヤン大学における英語教育改革の取組」というタイトルの発表が行われました。金森先生の発表は、前任校、長崎ウェスレヤン大学で行った英語教育プログラム改善の取組の紹介を軸に、昨今の日本全国の英語教育の動向、韓国や台湾、中国などアジア圏の英語教育の状況、英語教育の先進国フィンランドの教育事情など、幅広い視点からの調査結果を交え、今後、日本の大学が進むべき英語教育改革の方向性を示したものでした。小・中・高・大それぞれの教育機関が、互いに連携をとりながら、トータルとして日本人の英語力をどこまでどのように伸ばしてゆくべきかを考える必要があるということが強調されました。

年度末、春休み期間中の開催であったにもかかわらず、愛媛大学関係者22名のほか、香川大学、聖学院大学、愛媛県教育委員会、松山市教育委員会、中学高等学校関係者など、全部で46名もの参加者があり、今回のセミナーに対する関心の深さを物語っていました。終業式や、年度末の諸行事で参加できない現場の教員たちからは、開催日の変更ができないかという問い合わせも寄せられました。このような、地域密着型の教育改革セミナーを今後とも続けて欲しいという要望も多数寄せられました。

参考までに、竹蓋先生の三ラウンドシステムを活用した **CD-ROM** 教材は、メディア教育開発センター(**NIME**)に連絡することにより、利用することができます。一般の書店でも、「**3 STEP** リスニング」シリーズとして市販されているものもあります。詳しい情報は英語教育センターまでお問い合わせ下さい。

大学教育総合センター新任教員紹介

◆英語センター新任教員

金森 強 (かなもり つよし)

1960年長崎県生まれ 血液型 A 蟹座

《専門》 英語教育・英語音声学

《趣味・特技》 沖縄小林流空手道(5段)、ラグビー科学研究費補助を受けた研究で北欧、欧州、アジア諸国の英語教育の視察調査を行い、小学校から大学までの多言語教育政策確立に取り組んでいます。今後は、**CALL**教材を活用したシステムとしての大学英語教育プログラム作りにも取り組むつもりです。

学生さんがそれぞれの能力に応じた学習法を見つけ、継続的能力開発ができるよう、お手伝いしたいと考えています。「学習」が「楽習」になるまで、あせらず自分のペースで少しずつ進めて欲しいと願っています。

アン・ブレイジア (Anne Brasier)

初めまして、この4月から鹿屋体育大学から英語教育センターに赴任して来た新人英語講師アン・ブレイジアです。オーストラリアのビクトリア州出身で、来日して13年目です。日本に来たのは、英語圏以外の異文化の中で、ただの観光客としてではなく、実際に住んでみたかったからです。最初は1-2年間滞在するつもりでしたけれども、あっという間に12年も過ぎました。その間に、応用言語学修士と日本学修士を修得しました。長い滞在の間に数え切れないほどの貴重な経験と出会いがありました。日本の暮らしが楽しかったから、こんなに長くいたのでしょうが、自分の国から出たことで、経験も視野も広がったのがとても良かったと思います。ですから、本学の学生さんにも、海外へ行き、本物の経験をしてくることを勧めます。英語の授業で、そして学内活動で学生たちに出来るだけこのような希望を生かせるように頑張ります。

◆教育システム開発部新任教員

井上 敏憲(いのうえ としのり)

この度、教育システム開発部で勤務させていただくことになりました。昨年度までは19年間、県立高校で英語や進路指導を担当していました。記念すべき本学の法人化とともに、大学教育総合センターの一員に加えていただき光栄に思っております。前職を生かして、高大連携やAO入試について研究を進めていきます。

当面は、来年4月に開設するスーパーサイエンス特別コースの教育コーディネーターとして、一連の準備作業にあたります。全国的にも例を見ないこのすばらしい新コースの魅力を広くアピールし、入学者の期待に十分応えられる制度の整備に向けて力を尽くす所存です。関係のセンター、学部、学務部等、多くの皆様のお力添えをお願いいたします。

新任教職員が新生にメッセージ作成

4月9日(金)に新任教職員オリエンテーションが開催されました。大学教育総合センターからは、前川センター長が「愛媛大学の教育」について、松久副センター長が「愛媛大学の共通教育」、システム開発部の佐藤講師が「教育・学習支援体制」について説明を行いました。また経営情報分析室からは奥居助教授が「愛大生プロフィール」と題して、本学の学生の実態について説明しました。引き続き行われた「新任教職員から新生に送る漢字一言メッセージ」を作成するグループワークでは、「愛」「雲」などのメッセージを熱心にも書いてもらいました。メッセージは第一学生サービスセンターに1週間ほど掲示されました。新任教員の皆さんは、7月16日、17日に開催される教育ワークショップに参加していただくこととなります。



初めてのTA研修会

4月8日(木)に、本学で初めてとなるTA研修会が開催されました。参加者は257名でした。目的は、①本学の非常勤教育スタッフとしての意識を高めてもらうこと、②TAとして心がけなければならないことを知ってもらうこと、③授業支援に必要とされる基礎的なスキルを習得してもらうことでした。当日は、前川センター長より、「TAの心構え」について説明がありました。TAは教育スタッフであること、セクハラに注意することなどが説明されました。「愛大生プロフィール」と題した本学の学生の実態の説明、「授業の構造」に関するミニレクチャーの後には、「TAがよく直面する問題解決グループワーク」がありました。例えば「いつも遅刻してくる学生がいるがその学生にどのように注意すると効果的か」というテーマについて、改善策を話し合ってもらい、発表してもらいました。また、後半は①情報科学、②語学、③実験・実習に分かれて、専門的な内容に関する講義がありました。終了後のアンケートでは、8割の学生が「有用だった」「満足した」と答え好評でした。自由コメントには「TAをやるにあたって、なめていたわけではないが、簡単に考えていた。この研修を通して、心構えができたと思う。」「大変、ためになったTA研修会でした。」などとありました。一方で、「グループワークの成果がTAの仕事に反映できると感じられなかった。」などのコメントもあり、実際にやっている業務に直接結びつく研修内容を開発する必要性が明らかになりました。



所属研究科	人数
法文	0
教育	7
理工(理)	68
理工(工)	127
医	3
農	36
合計	241



今後、センターではワーキンググループを立ち上げ、TAの業務実態調査を行い、その有効活用の方法についても検討していく予定です。

共通教育企画・実施部全体会の開催

5月に入り、平成16年度の共通教育企画・実施部の組織が動き始めました。下記の一連の会議を経て、各部長、実施委員会委員長・副委員長が選出され、これを受けて企画委員会が成立いたしました。各委員の先生方には、1年間、よろしくお願いいたします。

○企画・実施部全体会の開催

日時 5月7日(金) 17時～18時

場所 共通教育大講義室

- 議事 1.平成16年度企画・実施部の業務について
2.企画・実施部に置く科目区分別部長の選出について

○企画・実施部実施委員会の開催

日時 5月14日(金) 17時～18時30分

場所 共通教育棟2階会議室

- 議事 1.平成16年度企画・実施部の業務について
2.共通教育実施委員会正・副委員長の選出

○第1回企画・実施部企画委員会

日時 5月21日(金) 17時～18時30分

場所 共通教育棟2階会議室

- 議事 1.平成16年度企画・実施部の業務について
2.平成16年度企画委員会の運営について

シリーズ 授業に役立つ工具箱(8)

大学生向けのスタディスキル本 AERA Mook 『勉強のやり方がわかる。』

(朝日新聞社 1,300円)



今回紹介するのは、大学教員向けのものではありません。大学生向けに書かれた本です。「大学で何を学ぶか」(What)や「大学でなぜ学ぶのか」(Why)というテーマでは、これまで多くの書籍があります。ここ数年は、この本のように「大学での学び方」(How)、いわばスタディ・スキルズ本がよく出版されています。

「最近の学生は質問の仕方も知らない」とか「話し合いをさせても話し合いにならない」という教員の台詞をよく聞きます。学生からすると「そんなこと習っていません」となるわけです。

本書で紹介されているスキルの一部を紹介します。

- 「ノートのとり方、質問の仕方」
- 「プレゼンテーションの方法」
- 「ディスカッションの進め方」
- 「本の読み方」「資料・文献の探し方」

丁寧に「大学教員との付き合い方」というものもあります。ちなみに「ノートのとり方」では、「教科書に沿った授業の場合、教科書の内容をただ書き写すな」「ノートに余白を残せ、つめて書くな」「教員の話をつまみしから書くな」といった具体的な助言があります。

大学生もここまで来たかとお嘆きの方もおられるかもしれませんが、こうしたスキル本は、気持ちよく授業という時間を過ごすためには教員、学生双方にとって有用なものでしょう。また教員にとっては、今の大学生が学習面のどこでつまづいているのかを知るのに役立つでしょうし、本学の基礎セミナーのカリキュラムづくりの際には参考となるでしょう。

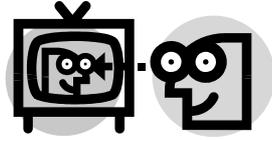
大学教員の個人的経験を基本として書かれている類書も多くあります。しかし、本書のそれぞれの説明は、各大学の大学教育関係センターで、日々、FDや学習支援にあたっている教職員を中心に執筆されており、よく整理されたものになっています。

この本を読んだ高校生が本学にも多数入学してくれることを期待したいと思います。

▼ 大学教員が授業をする上で役立つ書籍、WEB情報を紹介します。取り上げて欲しいテーマがある方は、巻末の編集委員までご連絡下さい。

「ビデオ教材を効果的に使うには…」

Q. 講義だけだと退屈すると思ひ、ビデオを使うことが多くあります。ところが、アンケートには「ビデオばかり見せられて退屈だった」とありました。効果的な使い方はないでしょうか？



「映像の批判的な見方を教える」

A. 映画や市販のビデオも含め、映像教材は、学生に教育内容を理解させるのを促進するのに効果的です。教室にいながらにして、時間や空間を超越することができます。ミクロやマクロの世界を見せることで、日常世界では体験できない世界に興味を持たせることができます。しかし使用方法を誤ると、学生にとって単なる休憩時間になってしまうこともあります。効果的に活用するにはどうしたらよいのでしょうか。

上映前に十分な説明を。 「今日はビデオを見ます」と言って突然上映をスタートするのでは、学生も困惑します。見せる理由、何を学んで欲しいのかについて学生に説明します。映像と学生がすでに知っている知識（既有知）との関連づけ、専門用語や固有名詞の黒板への書き出し（知らない用語が出ると思考が停止し、内容に集中できない学生がいます）などを行います。上映後にする質問を黒板に書き出ししておくことによって、学生は集中して映像を見るようになります。最も良くないのは、講義が連続して学生も疲れたらうからという理由でビデオを見せる場合です。その意図が学生には伝わってしまいます。

批判的に見る訓練を。 あらゆる映像は意図的に作られています。同じテーマを異なる見方からとらえたニュースや映画を見せて、批判的に映像を見る訓練をする必要があります。幼い頃から受容的にテレビやインターネットを見ている学生たちの中には、映像を疑うことをしない者もいます。

途中で止める。 長い映像の場合は途中で止めて、学生に内容に関する質問をしたり、「この人はこう思っているが、私はこう思う」と映像中の人物と教員が仮想で対話をしたりするのも効果的です。また科学の実験では、実験映像を途中で止めて、次に何が起こるかを学生に推測させることもできます。また、レジュメや教科書の関連部分を参照するなどして、教材同士の関連性を指摘します。また、上映中に私語でうるさくなった場合は、止めて注意をします。

事前の準備をきちんと。 AV 機器の操作に手間取ったり、冒頭部分の巻戻しができていなかったりすると学生の集中力が切れます。十分な準備をしましょう。また教員は、最初から最後まで事前に内容を見ておき、見るポイントや視聴後に学生同士で話し合わせるテーマを書き留めておきます。

学生とともにビデオを見る。 自分は何度も見たからといって、教室を出てしまう教員がいるようです。視聴時の教室の雰囲気や学生の反応、表情を観察することで、多くのことを学ぶことができます。「さっきは〇〇の場面で皆さんは強い関心を示していましたね」とコメントすることで、授業に引き込むこともできます。

自分で映像を作る。 実際のところは、授業で使いたい映像が教材化されていないことの方が多いかと思います。その場合は、自分でデジタルビデオを使って撮影し、教室で流すこともできます。安価で済みますし、教員が撮影した映像ということで注目度も高まります。ただし、プロジェクターを通した大画面で視聴する場合、画像の揺れ、光の具合、音声などが不備だと視聴に耐えないものになる可能性は高いです。長時間の映像の場合は、専門家からのアドバイスを受けると良いでしょう。

参考文献：『授業の道具箱』pp. 403-406（バーバラ・グロス・デイビス 東海大学出版会 2002年 2800円）

▼ 大学教員が授業をする上で役立つコツ（ティップス）を伝えます。取り上げて欲しいテーマがある方は、巻末の編集委員までご連絡ください。

4 平成 16 年度授業改善のための期末アンケートについて

5 平成 17 年度入学者に適用する履修単位表について

6 平成 16 年度共通教育企画・実施部及び教育システム開発部の研究員募集について

センター日誌

2 月

- 6 日 第 2 回安全衛生小委員会
- 12 日 第 6 回センター自己点検評価委員会
- 19 日 第 17 回センター運営委員会
- 23 日 第 10 回教育改革推進委員

3 月

- 3 日 第 22 回共通教育企画委員会
- 5 日 第 18 回センター運営委員会
- 19 日 第 19 回センター運営委員会
- 23 日 第 3 回愛媛大学英語教育改革セミナー
- 24 日 学位授与式

4 月

- 6 日 共通教育ガイダンス
- 7 日 入学式・歓迎セレモニー
- 8 日 学生生活ガイダンス
- 8 日 新任 T A 研修会
- 9 日 専門教育ガイダンス
- 9 日 新任職員研修会
- 16 日 第 1 回センター運営委員会
- 28 日 第 2 回センター運営委員会

5 月

- 7 日 共通教育企画・実施部全体会
- 14 日 共通教育企画・実施部実施委員会
- 21 日 第 1 回予算小委員会
- 21 日 第 1 回共通教育企画・実施部委員会
- 26 日 第 3 回センター運営委員会

学生の声

「月曜日、3，4 限と連続して語学は
集中力もちません」

センターから学生へのコメント

コメントありがとうございます。今後もどんどんコメントをお願いします。

この意見について何人かの学生さんの感想を聞いてみました。

おおむね 3 つのパターンがあるようです。参考までに紹介します。

1. 分かる。語学はネイティブの先生が多くて、正直、緊張する。でも週 1 回ぐらいはそんな日があってもいいかな。実社会ではそんなことがたくさんあるという話だから。

2. 分かる。でも、ちょっと変かな？それじゃあ、語学じゃなくて講義系の授業なら集中力は必要ないということになるんじゃないかなあ。

3. 分かるけど考えようかも。午後になると疲れが出て眠くなる。そんな時には、講義系の授業では居眠りすることがあるけれど、語学のようによく当てられる授業のほうがしっかり取り組めるよ。

(共通教育企画・実施部長 松久 勝利)

■■■IEC リポート No11■■■

愛媛大学大学教育総合センター広報誌

発行日：2004 年 6 月 1 日

発行元：愛媛大学大学教育総合センター

〒790-8577 松山市文京町 3 番

TEL 089-927-8904 (代表) FAX 089-927-8915

<http://www.iec.ehime-u.ac.jp/iecweb/index.html>

編集者：愛媛大学大学教育総合センター広報小委員会

松久勝利・折本素

井上敏憲・◎佐藤浩章

内容に関する意見・要望・お問い合わせは、◎印の委員まで
お願いします。sato@iec.ehime-u.ac.jp 内線 8346